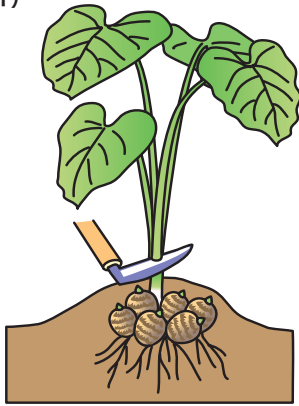
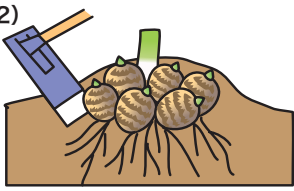


(図1)



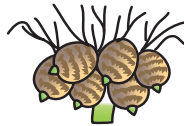
あらかじめ葉と葉柄を切り取り、作業しやすくしておく

(図2)



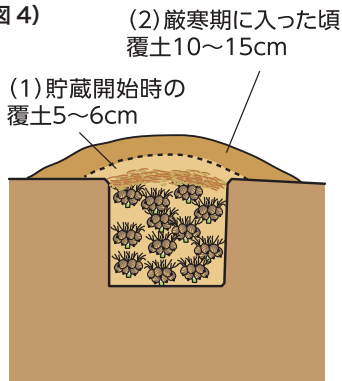
芋が外れたり傷ついたりしないよう注意して掘り上げる

(図3)



切り口を下に向けて詰め込む

(図4)



サトイモの主成分は、でんぷん類です。このでんぷんは加熱すると糊化し、消化吸収しやすくなります。カリウムも芋類の中では最も多く含んでおり、高血圧予防に効果的です。

タンパク質、ビタミンB群、Cなどを多く含み、栄養価が高いのが特長。しかも食物繊維も豊富で水分に富み、意外に低カロリー、体重が気になる方にもお勧めです。

秋になって盛んに育ち、芋が肥大したサトイモは、晩秋に入ると育ちが止まり、収穫期を迎えます。収穫適期の目安は、葉の緑が

**野菜づくり**

チャレンジ！

**サトイモの収穫と上手な貯蔵のコツ**

板木技術士事務所 板木 利隆

黄化し始め、葉が少し垂れ気味になった頃です。サトイモは寒さに弱く、1〜2回霜を受けただけで葉は容易に枯れてしまいますので、この頃が収穫の限界です。掘り遅れると品質を損ねるだけでなく、貯蔵した場合の故障芋が多くなってしまいます。

収穫に先立って、あらかじめ葉身を地上5〜6cmの高さで刈り取っておきます(図1)。芋や根は強大到太っているので、株の横の方に大きくくわを打ち込んで、子芋や孫芋を外さないよう注意して、株全体を丁寧に掘り上げます(図2)。

すぐに利用する場合は、その場で全ての子芋、孫芋、ひ孫芋を親芋から取り外します。多数の株を効率よく取り外すには、外側の外れやすい子芋を取り除き、残った株を手で持ち上げて、大きなビール瓶などで横から強く打つと、案

外傷つかずによく外れ落ちます。貯蔵する場合には、子芋、孫芋などを外さないよう、特に注意して取り扱います。外れてしまうとその傷口から傷み始めるので、貯蔵中の故障株が多くなります。

貯蔵する場所は、排水の良い畑を選んで、幅40〜50cm、深さ60cmぐらいの貯蔵穴を設けます。そして掘り起こした株を丁寧に運び、地上部の切り口を下方に向けて丁寧に積み重ね詰め込みます(図3)。反対に詰めると子芋が離れやすく、傷口から腐敗する芋が多くなってしまいます。

貯蔵穴を全部詰め終わったら、その上に麦わら、稻わら(カヤがあれば最高)などで覆い、5〜6cm覆土しておきます。さらに厳寒期に入った頃に10〜15cmの覆土を追加して寒さから守ります(図4)。

11月〜2月の雑草発生前に散布する事で、長期間雑草を抑えます！  
来春の斑点米カメムシの発生を減らしましょう！

肥料・農薬のご紹介

水田畦畔の雑草防除に

**カンロン粒剤4.5**

けいはん

カンロン 粒剤4.5

3kg入



【特徴】

- ・長期間雑草を抑えます。
- ・粒剤なので、使用がとても簡単です。
- ・ギンギシ・ヨモギ・スギナ・ヤブガラシ等の難防除雑草によく効きます。
- ・平地も傾斜地も簡単に処理出来ます。
- ・斑点米カメムシが産卵する雑草を枯らし、発生量を少なく出来ます。

均一に散布すれば、非常に抑制効果の高い除草剤です！  
フェンス際や傾斜地等への使用もOK！草刈作業が楽になります。

※「環境こだわり栽培」中のほ場には使用できませんので、ご注意ください。



## 今月の農家さん

### 土地と野菜の特性を考える

野洲市野田

小森 真樹さん (41才)



専業農家になって7年目の小森さん。ビニールハウスでハウレンソウやシュンギクなどを育てているほか、毎年秋には郷土野菜の「吉川ごぼう」を収穫しはじめます。

吉川ごぼうは、野洲市吉川の水はけの良い土を活かして約40年前から栽培されており、普通のゴボウより皮が白く、アクや苦みが少ないのが特徴です。

「栽培のきっかけは『高齢化や後継者不足で吉川ごぼうの作付けがなくなるかもしれない』

と聞いた事でした。その土地ならではの野菜が無くなるのはもったいない」と小森さんは話します。

はじめは吉川の農家の方に栽培方法などを教えてもらいながら少しずつ栽培面積を拡大し、今では約30aの畑に作付けしています。

最後に小森さんは「大切なのはその土地に適した野菜を育てる事だと思います。土地の特性を活かした伝統野菜で地域が活気づけば嬉しい」と話します。

## 営農情報

### ◆水稲

#### 来年産の水稲栽培に向けた土作りについて

「稲は地力でとる」といわれる通り、水稲を栽培する上で土づくりは、大切な作業のひとつです。土づくりを行うと、登熟向上や稲体の活力維持などの効果があり、米の品質向上・収量増大が期待できます。

また、土作りにはカドミウムの吸収を抑制する効果もあります。土づくり肥料によって土壌のpHが高まることで、カドミウムは植物の根から吸収されにくい状態になるので。

そのため、来年の作付予定地には必ず土づくり肥料(とれ太郎など)を散布し、食の安全を脅かすカドミウムを吸収させないようにしましょう。

#### 稲わらのすきこみについて

ほ場に稲わらをすき込むと、途中で分解されて腐植になり、やわらかく保肥力の高い土壌を作ることができます。

また、稲わらに多く含まれるケイ酸は、稲の茎や葉を硬くして倒伏や病害虫に対する抵抗力を高める効果があり、非常に有用です。

### ◆大豆

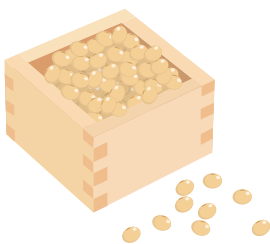
#### 大豆の収穫について

大豆の成熟期は「葉が完全に落葉し、茎の大部分が褐色に変化し、子実が品種特有の色を呈して、莢を振ればカラカラと乾いた音がする時期」です。

汎用コンバインによる収穫適期は、成熟期から一週間以上過ぎ、ほ場での乾燥を促進させて、莢がポキッと折れる頃が目安です。

ただし、十分に乾燥した収穫適期であっても朝露が残っている時間の収穫は、粒が傷つきやすく品質低下の原因になります。天候などにより異なりますが、およそ午前10時以降に、朝露が無くなった事を確認して収穫作業を行きましょう。

また、収穫前にイヌホオズキ等の雑草や青立ち株を除去して、汚損粒が発生しにくいようにしましょう。



稲わらを十分に分解させるため、すき込みはできるだけ年内に行いましょう。